第46回日本重症心身障害学会学術集会　参加報告

３Ａ病棟　中嶋彰子

令和３年１２月１０日(金曜日)・１１日(土曜日)の２日間、第４６回日本重症心身障害学会学術集会が開催されました。新型コロナウイルス感染症のため、初めてのオンライン開催となり、当センターからは、医師・看護師・理学療法士による計１１題の発表が行われました。

私は「ソフトマッサージを用いた重症心身障害児（者）の便秘改善に向けた介入の一事例」を発表させて頂きました。慢性的な便秘のある利用者に対して、皮膚に柔らかく触れるケアを一定期間行った結果排便状況に僅かに変化がみられたこと、今後の課題などを報告し、一般的な腹部マッサージとの違いについて質問も頂きました。

当センターからの発表は田沼医師による「重症心身障害児者の腸内細菌叢の解析―投与ルートと栄養剤の種類別の菌叢パターン比較―」、荒谷看護師による「公開模擬倫理カンファレンスの開催―ファシリテーターの育成を目指して―」などがあり、いずれの発表も大変興味深い内容でした。食物繊維が含まれる経管栄養剤が腸内環境に与える影響や、倫理カンファレンスにおけるファシリテーターの育成を通した利用者の意思決定支援を支える取組みなど、皆様の発表内容は普段の療育と直結したものであり、利用者のＱＯＬを高めていくヒントに溢れていたと感じました。

他施設の専門職の方の発表についても、施設内での新型コロナウイルスクラスター発生時の対応、気管切開をしている小児における気管カニューレ管理・合併症など、意義深い発表を多く拝聴させて頂きましたが、その中でも私は市原真穂氏による「多様性の事態における重症心身障害児（者）への看護ケアの創造と共創」の発表が心に残りました。市原氏は重症児者看護に携わる看護師の役割として、「常に適時・適切な働きかけ」「今の身体状況がどのような危機をもたらすか予測しながらケアする」「成長・発達に伴って身体状況がどのように変化するか予測しながらケアする」などと述べており、また施設内という観点だけでなく、家族・地域といった重症児者が関わる様々な場・人を意識して多職種・他施設との連携を行う重要性を指摘していました。発表を拝聴し、これらは重症心身障害児者施設で看護に携わる私達にとって非常に重要な視点であると感じました。

今回、オンラインという形式ではありますが、初めて学会に参加させて頂き、多くの貴重な発表を拝聴する中で、研究的な視点で重症心身障害児者の療育に関わる重要性を改めて認識しました。今後は普段の療育でも、研究的な視点を持ちながら一人ひとりの利用者にとって善いケアを考えていきたいと思います。

〒183−8553
東京都府中市武蔵台２−９−２
東京都立府中療育センター
電話　０４２（３２３）５１１５
ＦＡＸ ０４２（３２２）６２０７

＊−＊−＊ホームページもご覧下さい＊−＊−＊

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html

ひだまり

都立府中療育センター新聞　第５２９号　発行日　令和４年１月３１日

新年の御挨拶

院長　澁谷和彦

皆様、明けましておめでとうございます。２０２２年という新しい年が始まりました。

２０２０年と２０２１年は、当センターの大きな転換点となる２年間でした。２０２０年は、多摩療育園（外来・通園）と旧府中療育センター（病棟・通所）の２施設が移転して一体となり、病棟・外来・通所・通園の４部門からなる新センターが誕生した年です。そして、２０２１年は、新しく生まれ変わった当施設が満１歳の誕生日を迎えた年です。２０２１年６月１日、１周年記念式典の開催はありませんでしたが、感慨深い思いでこの日を迎えました。新しい患者・利用者の対応はもとより、導入した電子カルテの運用、施設不具合の修復、新型コロナウイルスの対策など、職員一人一人が懸命に取り組んだ１年間でした。勿論、それが可能となりましたのは、センター外の皆様から温かい御支援を頂いた御蔭と心より感謝しております。

満１歳を過ぎた当センターは、１人で立ち少し歩けるようになりました。しかしながら、歩けば転んだり何かと衝突したり事故を起こします。まだ目を離すことは出来ません。良い施設となるように全職員が力を合わせて育てていきたいと思います。そして、ここを訪れる誰もが安らぎと温かい未来を感じることができる、そんな施設になることを願っております。

２０２２年が、皆様にとりまして良い年となりますよう心からお祈り申し上げます。引き続き御理解および御支援を頂けますように、どうか宜しくお願い申し上げます。

正月お楽しみ会

２Ｃ病棟　島田久雄

１月１７日（月曜日）、２Ｃ病棟で「お正月お楽しみ会」を実施しました。

感染対策としてソーシャルディスタンスをとりながら、実施しました。当初は、招待観劇でマリンバの方に正月らしい音楽をお願いしていましたが、残念ながら感染対策のため見送りになり、大きな百人一首を使用した「坊主めくり大会」を実施しました。利用者の方がわかりやすくて楽しめるルールと、写真を使った展示方法で６チームに分かれて対戦しました。まわりの職員も大いに盛り上げてくださり、逆転に次ぐ逆転の展開で、楽しい時間は過ぎるのが早く、あっという間の「お正月お楽しみ会」でした。利用者のたくさんの笑顔で、穏やかな楽しいひとときを過ごせたと思います。

新春を祝う会

１Ａ病棟　渡部亜希子

今年の新春を祝う会は、みんなで初笑いということで、年末にドラマ放送された「志村けんとドリフの大爆笑物語」を上映しました。カーテンを閉め、スクリーンの出ているデイルームに集まると、何が始まるのだろうと期待感でニコニコした表情になり、まだ何も映っていないスクリーンに視線を向けていました。上映会の初めの頃は、出演者とドリフメンバーがつながらなかったり、シリアスな場面が多かったりして、皆さんは真剣な表情でスクリーンを見ていました。しかし、徐々に笑える場面が増えてくると、声を出して笑ったり、利用者同士、顔を見合わせて笑っていました。１Ａ病棟の利用者は、ほぼ昭和生まれの方たちで、当日勤務した職員も昭和生まれだったため、利用者も職員も笑いのツボが一緒で、同時に声を出して笑ってしまいました。スイカの早食いや同じ間違いの繰り返しでは、思い出話を交えながら声を出して笑っていました。ひげダンスの場面では、一緒にリズムをとっている利用者もおり、利用者も職員も大笑いし、一緒に楽しむことが出来ました。

東京都立府中療育センター新聞　第５２９号

バスハイク

１Ｂ病棟　石川さをり

新年になって初めてのバスハイクは大国魂神社へ参拝する予定でしたが、コロナの感染拡大に伴い、ドライブに変更になってしまいました。予想はしていましたが、参加される利用者の方に説明をすると、少しがっかりしたようでした。「では皆さんの好きな音楽でもかけながらドライブしましょう」と話をすると、ぱっと表情が晴れ笑顔になりました。さすが、女子は切り替えが早い！利用者さんお気に入りの中島みゆきさんのＣＤを持って、いざドライブへ！！まずは当初の予定だった大国魂神社へ行き、バスの車窓から参拝です。「１Ｂのみんなが健康に過ごせますように」と手を合わせました。コロナ禍だから、神様も大目に見てくれるかな？その後は中島みゆきさんの曲をかけながら、府中から調布方面へ。車窓から見える冬の景色と歌が心に染みるようでした．もう１人の利用者さんは、運転手さんのことが大好きで、声をかけてもらうと満面の笑み。この利用者さんにとっては、ドライブの方が運転手さんと長い時間一緒にいられて良かったようでした。帰ってから参加した方に感想を聞くと「楽しかった」とメモをくれました。それぞれの楽しみ方ではありますが、冬のドライブを満喫した半日バスハイクでした。

お楽しみ会

２Ｂ病棟　星屋聡子

１月１２日(水曜日)招待観劇として楽鼓会の方５名に来て頂きました。新型コロナ感染症防止から３年ぶりに実現しました。楽鼓会は民俗芸能を３５年続けており、全国に赴き、その地方の楽器、太鼓などを学びそれを披露しているそうです。

初めにお囃子（おはやし）の軽やかな笛の音にのって、お獅子が踊ります。みかんを食べたかと思うと皮だけが大きな口から出てきてお見事です。秋田県の「寄せ囃子」、弘前の「ねぶた囃子」と続きました。銭太鼓という２本の棒を使って振ると中から音がする楽器があります。花笠音頭の曲に合わせて、銭太鼓をリズミカルに巧みに動かす様子は楽しく、一緒にリズムをとっていらっしゃる利用者もいました。５曲目最後は、「三宅太鼓」といって、大きな和太鼓を全身を使って叩くもので、その姿はとても力強く、響き渡る太鼓の音を全身で感じることができました。目の前で、実際に踊る獅子舞や太鼓を叩く姿を利用者の方は本当に良く見ていました。久しぶりに、舞台を見ることができ、おめでたい新年にふさわしい楽しい会になりました。